令和６年度
第1回　阿倍野区民アンケート調査
「阿倍野区の取組にかかるアンケート」
報告書

令和６年12月

大阪市阿倍野区役所

目次

Ⅰ. 調査概要 1
1－1 調査目的 1
1－2 調査方法 1
1－3 調査内容 1
1－4 回収結果 2
1－5 調査結果の見方 2
1－6 標本誤差 3
1－7 標本の代表性 3
Ⅱ. 調査結果 5
1 デジタル技術を活用した行政サービスの提供 5
【問1】 行政サービスの利用の有無 5
【問2】 利用した行政サービスの感じ方 7
【問3】 利用した行政サービスが便利・快適と感じなかった理由 8
2 区民サービスの向上 9
【問4】区役所の効果的・効率的な業務運営に対する感じ方 9
【問5】窓口サービス等の応対に対する感じ方 10
3 区政情報の効果的な発信 12
【問6】区政情報の発信に対する感じ方 12
【問7】区政情報の効果的な発信に向けた工夫 13
4 地域の防災力向上 14
【問8】災害時の避難所生活において不安に思うこと 14
5 活力ある地域コミュニティづくりの推進 16
【問9】身近な地域でのつながりに対する感じ方 16
6 子育てしやすく、すべての子ども・青少年が健やかに育つ環境づくり 17
【問10】子育てしやすい環境づくりに対する感じ方 17
7 子ども・青少年が安心して教育を受け、成長できるまち 19
【問11】区役所の教育環境推進の取組に対する感じ方 19
8 みんなで支え合う地域づくりと支援体制の充実 21
【問12】お困りごとに対する相談窓口等の認知 21
【問13】 相談窓口等に相談したいと思わない理由 23
9 地域福祉計画の推進 25
【問14】 地域福祉活動への参加の有無 25
【問15】参加したいと思う地域福祉活動 26

Ⅰ. 調査概要

1－1 調査目的

阿倍野区では、「誰もが住みたい、住み続けたいまち『あべの』の実現」をめざし、「阿倍野区将来ビジョン」・「阿倍野区運営方針」に基づき、さまざまな取組を行っています。

本アンケートを通して、区の事業や取組について広く意見や評価をいただくことで区民ニーズを把握し、今後の阿倍野区政に反映していくための貴重な情報として活用することを目的としています。

1－2 調査方法

調査区域	阿倍野区全域
調査対象	阿倍野区内在住の18歳以上の方で、住民基本台帳から無作為に抽出した方（1,500名）
調査期間	令和6年８月5日（月）～令和6年８月23日（金）
調査方法	調査票の送付による配布、返送用封筒・大阪市行政オンラインシステムによる回収

1－3 調査内容

本調査の内容は、以下の調査項目のとおりです。

1　デジタル技術を活用した行政サービスの提供
- 【問1】行政サービスの利用の有無
- 【問2】利用した行政サービスの感じ方
- 【問3】利用した行政サービスが便利・快適と感じなかった理由

2　区民サービスの向上
- 【問4】区役所の効果的・効率的な業務運営に対する感じ方
- 【問5】窓口サービス等の応対に対する感じ方

3　区政情報の効果的な発信
- 【問6】区政情報の発信に対する感じ方
- 【問7】区政情報の効果的な発信に向けた工夫

4　地域の防災力向上
- 【問8】災害時の避難所生活において不安に思うこと

5　活力ある地域コミュニティづくりの推進
- 【問9】身近な地域でのつながりに対する感じ方

6　子育てしやすく、すべての子ども・青少年が健やかに育つ環境づくり
- 【問10】子育てしやすい環境づくりに対する感じ方

7　子ども・青少年が安心して教育を受け、成長できるまち
- 【問11】区役所の教育環境推進の取組に対する感じ方

8　みんなで支え合う地域づくりと支援体制の充実
- 【問12】お困りごとに対する相談窓口等の認知
- 【問13】相談窓口等に相談したいと思わない理由

9　地域福祉計画の推進
【問14】地域福祉活動への参加の有無
【問15】参加したいと思う地域福祉活動

1－4　回収結果

1　配布数　　:1500件
2　回収総数　:752 件　回収率:50.1%（郵送:441 件、オンライン:311 件）
3　有効回収数:743 件　有効回収率:49.5%（郵送:437 件、オンライン:306 件）
4　配布・回収結果は以下のとおり

	アンケート送付数	回答者数	回収率
18～34 歳	323	105	32.5%
35～64 歳	738	376	50.9%
65 歳以上	439	262	59.7%
総計	1,500	743	49.5%

※回収数は 752 件でしたが、無効回答が 9 件あったため、有効回収総数は 743 件としました。

1－5　調査結果の見方

- 特にことわりのない場合は全て複数の選択肢から 1 つだけを選択して回答する問となっています。
- 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。このため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても構成比の合計が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ形式）の場合、回答は選択肢の有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、集計の合計は 100%を超える場合があります。
- 図表やグラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- 図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 自由記述による回答については、一部、抜粋としました。また、わかりやすくするため、要約を記載する場合があります。
- アンケートにおいて、年齢別のクロス集計を行うため、また郵送による回答とオンラインによる回答の重複集計を防ぐため、4桁の番号を附番しておりましたが、回答者個人を特定する目的ではありません。

1－6 標本誤差

今回の調査は標本調査として実施しています。そのため、標本による測定値（調査の結果）と真の値（母集団を全数調査すれば得られるはずの数値）との間に誤差が生じることがあります。この誤差を標本誤差といいます。標本誤差は、標本による測定値に基づいて、母集団値を推定するときの誤差の目安となります。

無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度 95%とした場合）については次の式で算出できますが、今回の調査結果は後述する「標本の代表性」で述べる通り標本（回答者集団）は各年齢区分間において母集団に対する代表性を有しないと判断されるため、標本誤差以外に大きな非標本誤差が発生している可能性が高く、本調査の結果を母比率の推定値として用いる場合にはこの点に留意する必要があります。

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{P \times (1-P)}{n}}$$ （n＝標本の大きさ（回答者数）、P＝回答比率）

■年齢別 回答比率ごとの標本誤差（単位：%）

標本誤差（単位：%）		回答比率（p） ＼ 回答者数（n）	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	50%
			95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	50%
全体		743	1.6	2.2	2.6	2.9	3.1	3.3	3.4	3.5	3.6
年齢別	18～34 歳	105	4.2	5.7	6.8	7.7	8.3	8.8	9.1	9.4	9.6
	35～64 歳	376	2.2	3.0	3.6	4.0	4.4	4.6	4.8	5.0	5.1
	65 歳～	262	2.6	3.6	4.3	4.8	5.2	5.5	5.8	5.9	6.1

例えば、問4の「あなたは、効果的・効率的な業務運営に向け、阿倍野区役所の取組が進められていると感じますか」の調査結果を見ると、「感じる計（「感じる」＋「どちらかといえば感じる」）」は全体で 59.8%となっており、ここから導き出される標本誤差の数値は、表にある最も近い値（60%）の±3.5%です。

つまり、母集団を対象に本調査を行ったところ、「感じる計」の全体が 59.8%の前後 3.5%の区間内、すなわち 56.3%～63.3%の区間内にあることが 95%の信頼度で期待されるということを意味しています。

1－7 標本の代表性

母比率の推定などの統計的推定を行うためには、標本（回答者集団）が母集団に対する代表性を有している必要があります。この点について検証するため、カイ二乗検定により適合度検定を行います。検定する仮説は次のとおりです。

（帰無仮説）標本は母集団に対する代表性を有する（偏りがない）
（対立仮説）標本は母集団に対する代表性を有しない（偏りがある）

有意水準は5%に設定し、検定から得られるP値が有意水準を下回るか、つまり検定統計量(カイ二乗値χ^2)が上側確率5%点を上回り、棄却域に入るかどうかで判断します。

(なお、有意水準は「判断が誤っていることをどの程度まで許容するか」を決める基準で事前に決定します。これを5%にするということは、判断が誤っている確率を5%までは許容するということです。また、P値は「帰無仮説が正しいとした場合に、観測された状態を含め、より極端な状態が観測される確率」です。今回の帰無仮説は「標本は母集団に対する代表性を有する」です。これは「標本は母集団から無作為抽出されたものである」と同義ですので、P値は「母集団から無作為に抽出した場合に、回答者集団のような偏りを含め、もっと偏った集団が抽出される確率」ということになります。)

■母集団の大きさ(N)　(単位:人)

18 歳～34 歳	35～64 歳	65 歳以上	合計
20,866	46,306	27,733	94,905

※2024 年 5 月末日時点の住民基本台帳人口

■有効回答者数(測定値 n)　(単位:人)

18 歳～34 歳	35～64 歳	65 歳以上	合計
105	376	262	743

■適合度検定による検定結果

	検定統計量(カイ二乗値χ^2)	上側確率 5%点	P 値
年齢区分間	30.626	5.991	2.237E-07

※「P 値:2.237E-07」は 2.237 を 10 の 7 乗で割った数値を表し、有意水準(5%)を下回ります。

適合度検定から得られる各年齢区分間における検定統計量(カイ二乗値 χ^2)は 30.626 であり、カイ二乗分布における上側確率5%点の値である 5.991 を上回り棄却域に入る(P値が有意水準を下回る)ことから、帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択されます。

つまり、標本は各年齢区分間において母集団に対する代表性を有しない(偏りがある)と判断されるため、本調査結果を母比率の推定値として用いる場合には留意が必要です。

Ⅱ. 調査結果

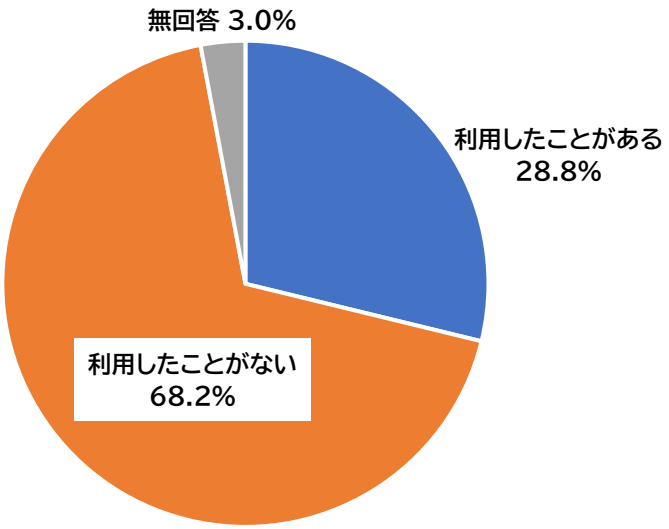
1. デジタル技術を活用した行政サービスの提供

阿倍野区では、多様化する区民サービスにあわせ、デジタル技術を活用した便利な行政サービスの提供をめざしています。具体的な取組は以下のとおりです。

●行政オンラインシステム
●マイナンバーカードでかんたん手続き
●オンライン相談
●来庁前予約システムの拡大
●行政情報や会議参加も自宅などからオンラインで可能
●LINE リッチメニュー、窓口案内自動応答サービス（LINE チャットボット）の充実

【問1】 あなたは、これまで上記のいずれかのサービスを利用したことがありますか。

		回答者数	利用したことがある	利用したことがない	無回答	計
全体		743	28.8%	68.2%	3.0%	100.0%
年齢別	18～34 歳	105	38.1%	61.0%	1.0%	100.0%
	35～64 歳	376	34.8%	63.0%	2.1%	100.0%
	65 歳～	262	16.4%	78.6%	5.0%	100.0%



■ 全体

「利用したことがない」が最も多く 68.2%、次いで「利用したことがある」が 28.8%となっております。

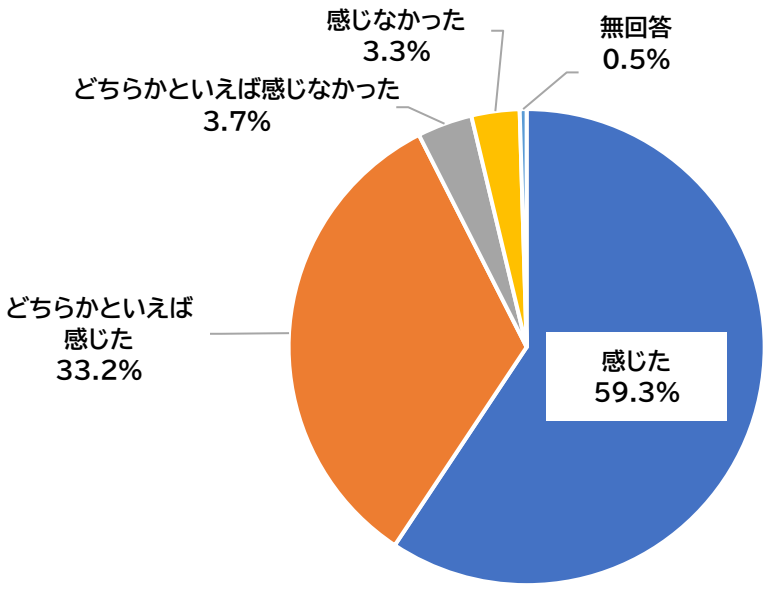
■　年齢別

「利用したことがない」を年齢別で比較すると、65 歳以上は 78.6%と最も多く、次いで 35～64 歳が 63.0%、18～34 歳が 61.0%となっております。

逆に「利用したことがある」を年齢別で比較すると、18～34歳が 38.1%と最も多く、次いで 35～64歳が 34.8%、65歳以上が 16.4%となっております。

【問2】 問1で「1 利用したことがある」と答えた方におうかがいします。当該サービスを利用して、便利・快適であると感じましたか。

		回答者数	感じた（a）	どちらかといえば感じた（b）	どちらかといえば感じなかった（c）	感じなかった（d）	無回答	計	感じる計（a+b）	感じない計（c+d）
全体		214	59.3%	33.2%	3.7%	3.3%	0.5%	100.0%	92.5%	7.0%
年齢別	18～34 歳	40	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	90.0%	10.0%
	35～64 歳	131	60.3%	34.4%	3.1%	2.3%	0.0%	100.0%	94.7%	5.4%
	65 歳～	43	53.5%	34.9%	0.0%	9.3%	2.3%	100.0%	88.4%	9.3%



■ 全体

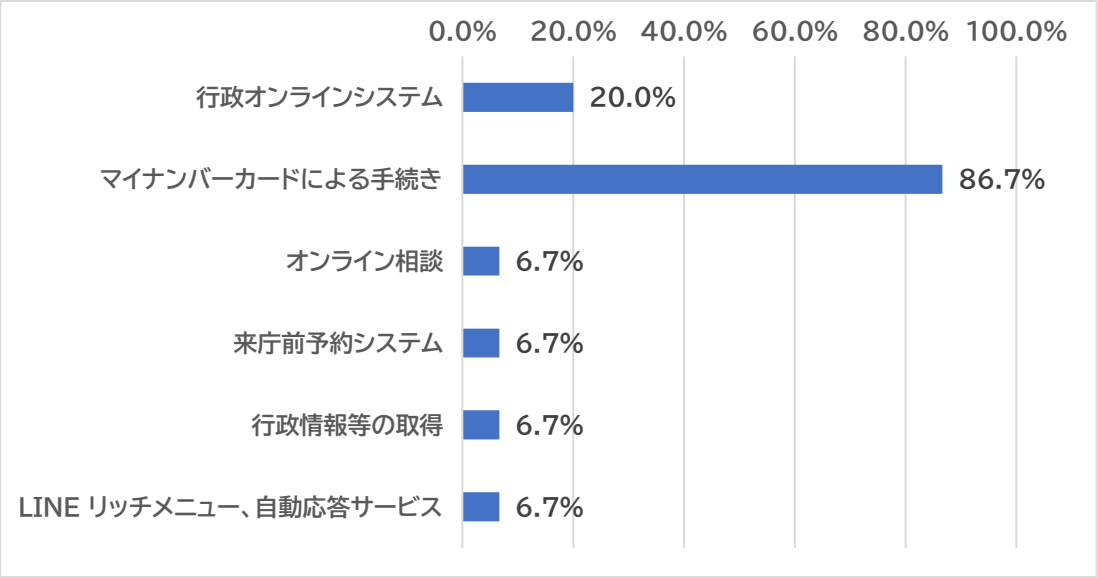
「感じる」59.3%、「どちらかといえば感じる」33.2%を合わせた「感じる計」は 92.5%に対し、「どちらかといえば感じない」3.7%、「感じない」3.3%を合わせた「感じない計」は 7.0%と、「感じる計」が 85.5 ポイント上回っています。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、35～64 歳は 94.7%と最も多く、次いで 18～34 歳が 90.0%、65 歳以上が 88.4%となっております。

【問3】 問2で「3 どちらかといえば感じなかった」「4 感じなかった」と答えた方におうかがいします。利用されたサービスと、便利・快適と感じなかった理由をあわせてご記入ください（複数回答可）。

		回答者数	行政オンラインシステム	マイナンバーカードによる手続き	オンライン相談	来庁前予約システム	行政情報等の取得	LINE リッチメニュー、自動応答サービス
全体		15	20.0%	86.7%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%
年齢別	18～34 歳	4	25.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	35～64 歳	7	28.6%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%
	65 歳～	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



■ 全体

「マイナンバーカードによる手続き」が最も多く 86.7%、次いで「行政オンラインシステム」が 20.0%、「オンライン相談」、「来庁前予約システム」、「行政情報等の取得」、「LINE リッチメニュー、自動応答サービス」が同じ 6.7%となっております。

「便利・快適と感じなかった理由」のうち、最も多い回答が「手続きや操作の煩雑さ」で 35.7%、次いで「利用頻度や興味の低さ」が 28.6%となっております。

■ 年齢別

年齢別で最も多い回答を比較すると、全ての年齢別では「マイナンバーカードによる手続き」となっています。

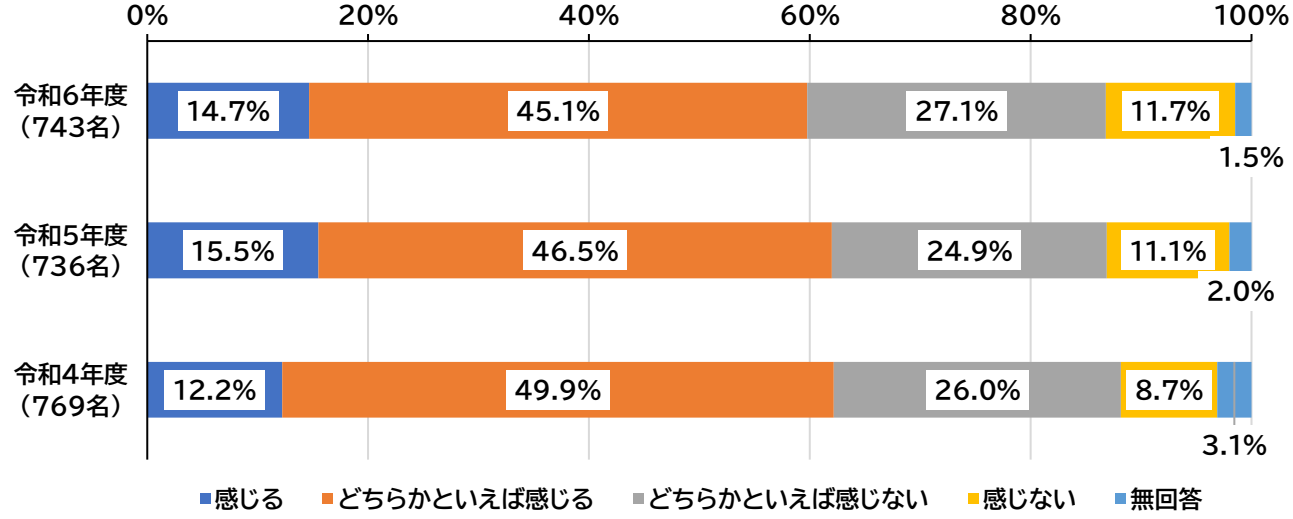
2. 区民サービスの向上

阿倍野区では、区民ニーズに即応した効果的・効率的な業務運営（※）に向け、区民にとってわかりやすく利用しやすい窓口の実現取り組んでいます。

（※）オンラインを活用した来庁前予約等による待ち時間短縮、レイアウトの工夫、業務の一部民間委託などの業務改善や経費削減を行うことを意味します。

【問4】あなたは、効果的・効率的な業務運営に向け、阿倍野区役所の取組が進められていると感じますか。

		回答者数	感じる（a）	どちらかといえば感じる（b）	どちらかといえば感じない（c）	感じない（d）	無回答	計	感じる計（a+b）	感じない計（c+d）
全体		743	14.7%	45.1%	27.1%	11.7%	1.5%	100.0%	59.8%	38.8%
年齢別	18～34 歳	105	18.1%	49.5%	21.9%	9.5%	1.0%	100.0%	67.6%	31.4%
	35～64 歳	376	13.3%	44.9%	29.0%	12.5%	0.3%	100.0%	58.2%	41.5%
	65 歳～	262	15.3%	43.5%	26.3%	11.5%	3.4%	100.0%	58.8%	37.8%



■　全体

「感じる」14.7%、「どちらかといえば感じる」45.1%を合わせた「感じる計」が 59.8%に対し、「どちらかといえば感じない」27.1%、「感じない」11.7%を合わせた「感じない計」は 38.8%となっています。

■　経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」の経年変化を見ると、令和 4 年度は 62.1%、令和 5 年度は 62.0%とほぼ同率ですが、令和 6 年度は 59.8%とやや減少しています。

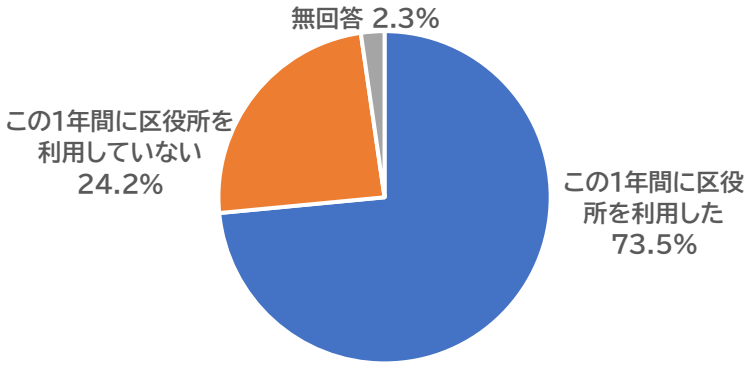
■　年齢別

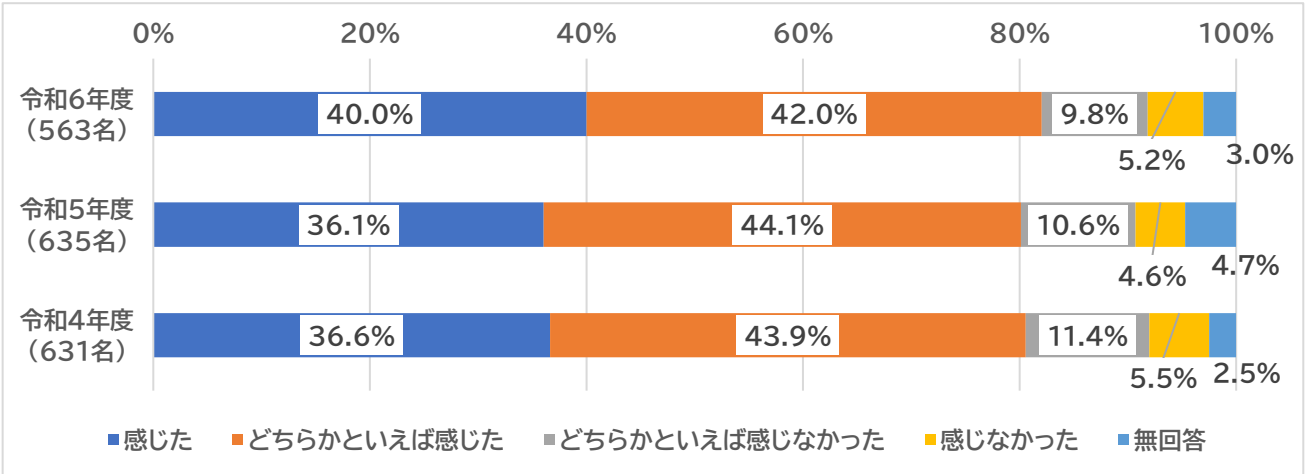
「感じる」、「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 67.6%と最も多く、次いで 65 歳以上が 58.8%、35～64 歳が 58.2%の順になっています。

【問5】この１年間に、来訪や電話などで阿倍野区役所を利用したことがある方におうかがいします。あなたは、区役所を利用した際、案内サービスや窓口、電話などの応対が良いと感じましたか。

		回答者数	感じた（a）	どちらかといえば感じた（b）	どちらかといえば感じなかった（c）	感じなかった（d）	この１年間に区役所を利用していない	無回答	計	感じた計（a+b）	感じなかった計（c+d）
全体		743	30.3%	31.9%	7.4%	3.9%	24.2%	2.3%	100.0%	62.2%	11.3%
年齢別	18～34 歳	105	29.5%	25.7%	4.8%	4.8%	35.2%	0.0%	100.0%	55.2%	9.6%
	35～64 歳	376	26.9%	35.9%	6.9%	3.7%	24.5%	2.1%	100.0%	62.8%	10.6%
	65 歳～	262	35.5%	28.6%	9.2%	3.8%	19.5%	3.4%	100.0%	64.1%	13.0%
注)全体		563	40.0%	42.0%	9.8%	5.2%		3.0%	100.0%	82.0%	15.0%

「注)全体」は、「この１年間に区役所を利用していない」を除いた 563 名を母数にした集計です。





※令和6年度は「この1年間に区役所を利用していない」を除いた 563 名を母数にした集計です。

※令和5年度は「この1年間に区役所を利用していない」を除いた 635 名を母数にした集計です。

※令和4年度は「この1年間に区役所を利用していない」を除いた 631 名を母数にした集計です。

■　全体

「この１年間に区役所を利用した」は 73.5%、「この１年間に区役所を利用していない」は 24.2%となっています。「この 1 年間に区役所を利用していない」を除いた 563 名を母数にした場合、「感じた」40.0%、「どちらかといえば感じた」42.0%を合わせた「感じた計」が 82.0%に対し、「どちらかといえば感じなかった」9.8%、「感じなかった」5.2%を合わせた「感じない計」は 15.0%となっています。

■　経年変化

「この 1 年間に区役所を利用していない」を除いた方の経年変化を見ると、「感じた」「どちらかといえば感じた」を合わせた「感じた計」は令和 6 年度が 82.0%と最も多く、次いで令和 4 年度は 80.5%、令和 5 年度は 80.2%となっています。

■　年齢別

「感じた」、「どちらかといえば感じた」を合わせた「感じた計」を年齢別で比較すると、65 歳以上が 64.1%と最も多く、次いで 35～64 歳が 62.8%、18～34 歳が 55.2%となっており、年齢が高いほど、区役所の応対が良いと「感じた計」が多くなっています。

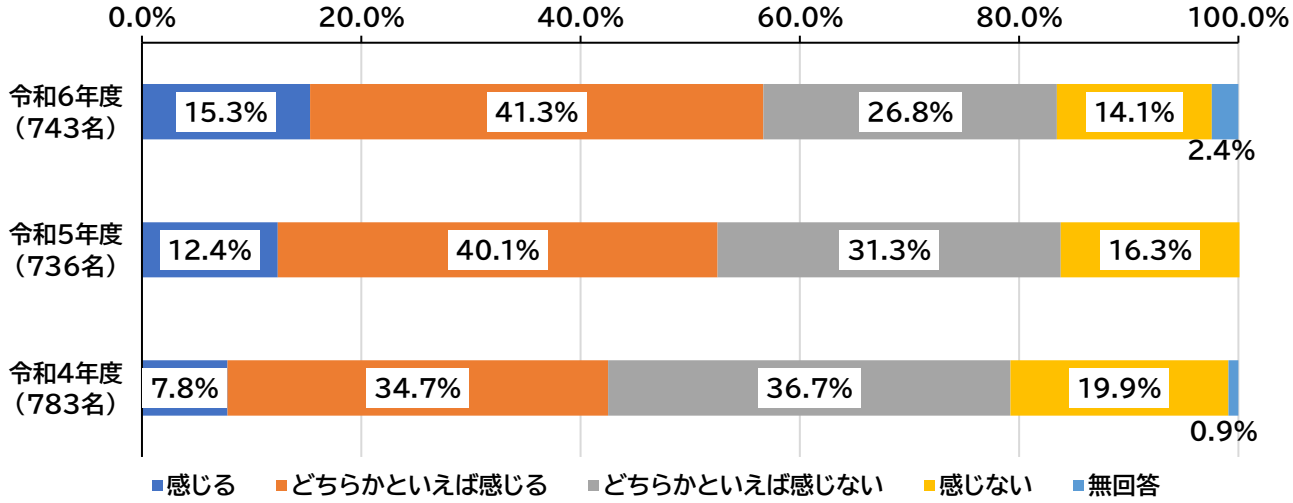
「この 1 年間に区役所を利用していない」は 18～34 歳で 35.2%と最も多く、次いで 35～64 歳が 24.5%、65 歳以上が 19.5%となっており、年齢が低いほど区役所の利用が少なくなっています。

3. 区政情報の効果的な発信

阿倍野区では、区民が必要としている情報や区民へ届けるべき情報が、それぞれの区民が求める方法で届くような情報発信に努めています。

【問6】 阿倍野区では、区政情報を区の広報紙、掲示板、ホームページ、X（旧 Twitter）・LINE・Instagram を含む SNS、YouTube などで発信しています。これらのツールにより、区のイベント情報が入手できるなど、阿倍野区の区政情報が効果的に発信されていると感じますか。

		回答者数	感じる（a）	どちらかといえば感じる（b）	どちらかといえば感じない（c）	感じない（d）	無回答	計	感じる計（a+b）	感じない計（c+d）
全体		743	15.3%	41.3%	26.8%	14.1%	2.4%	100.0%	56.6%	40.9%
年齢別	18～34 歳	105	15.3%	35.2%	35.3%	13.3%	1.0%	100.0%	50.5%	48.6%
	35～64 歳	376	12.8%	45.7%	25.5%	14.9%	1.1%	100.0%	58.5%	40.4%
	65 歳～	262	19.1%	37.4%	25.2%	13.4%	4.9%	100.0%	56.5%	38.6%



■ 全体

「感じる」15.3%、「どちらかといえば感じる」41.3%を合わせた「感じる計」は 56.6%に対し、「どちらかといえば感じない」26.8%、「感じない」14.1%を合わせた「感じない計」は 40.9%と、「感じる計」が 15.7 ポイント上回っています。

■ 経年変化

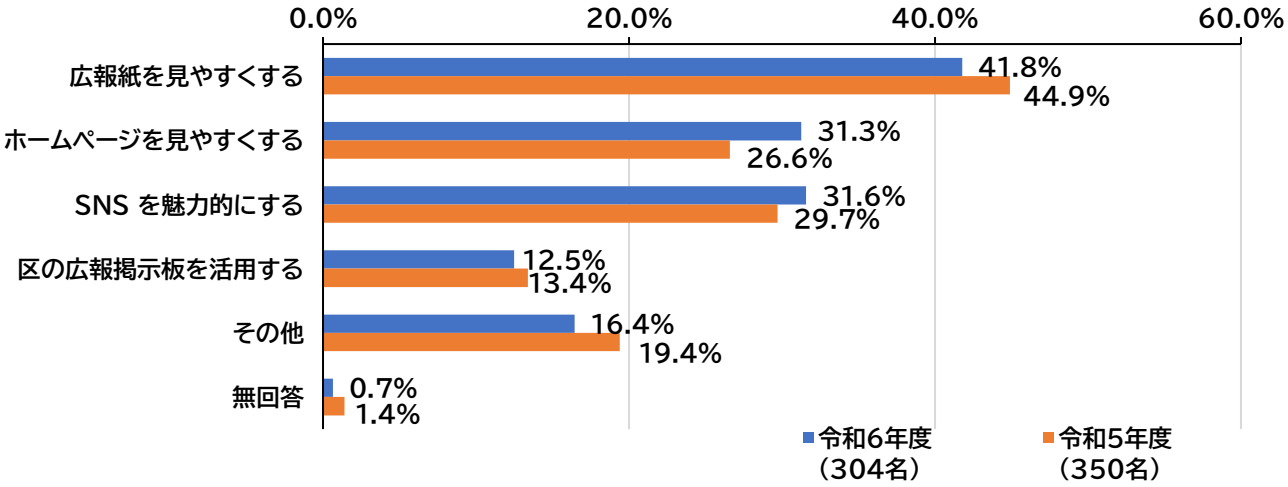
「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 4 年度が 42.5%、令和 5 年度が 52.5%、令和 6 年度が 56.6%となっており、増加傾向にあります。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、35～64 歳は 58.5%と最も多く、次いで 65 歳以上が 56.5%、18～34 歳が 50.5%となっております。

【問7】問6で「3 どちらかといえば感じない」または「4 感じない」と答えた方におうかがいします。どんな工夫があれば区政情報が効果的に発信されていると感じますか（複数回答可）。

		回答者数	広報紙を見やすくする	ホームページを見やすくする	SNS を魅力的にする	区の広報掲示板を活用する	その他	無回答
全体		304	41.8%	31.3%	31.6%	12.5%	16.4%	0.7%
年齢別	18～34 歳	51	19.6%	33.3%	60.8%	13.7%	11.8%	0.0%
	35～64 歳	152	38.8%	33.6%	36.8%	12.5%	11.8%	0.0%
	65 歳～	101	57.4%	26.7%	8.9%	11.9%	25.7%	2.0%



■ 全体

「広報紙を見やすくする」が最も多く 41.8%、次いで「SNS を魅力的にする」が 31.6%、「ホームページを見やすくする」が 31.3%、「区の広報掲示板を活用する」が 12.5%となっています。

「その他」の回答では、「情報の入手・伝達方法に関する工夫」と「デジタル機器や SNS の利用に関する工夫」が 22.0%と最も多く、次いで「広報や区の活動への関心の欠如に対する工夫」と「利用しない・わからない」が 20.0%となっています。

■ 経年変化

「広報紙を見やすくする」で経年変化を見ると令和 5 年度が 44.9%に対し、令和 6 年度は 41.8%と、3.1 ポイント減少しています。「SNS を魅力的にする」については、令和 5 年度が 29.7%に対し、令和 6 年度は 31.6%と、1.9 ポイント増加しています。「ホームページを見やすくする」については、令和 5 年度が 26.6%に対し、令和 6 年度は 31.3%と、4.7 ポイント増加しています。「区の広報掲示板を活用する」については、令和 5 年度が 13.4%に対し、令和 6 年度は 12.5%と、0.9 ポイント減少しています。

■ 年齢別

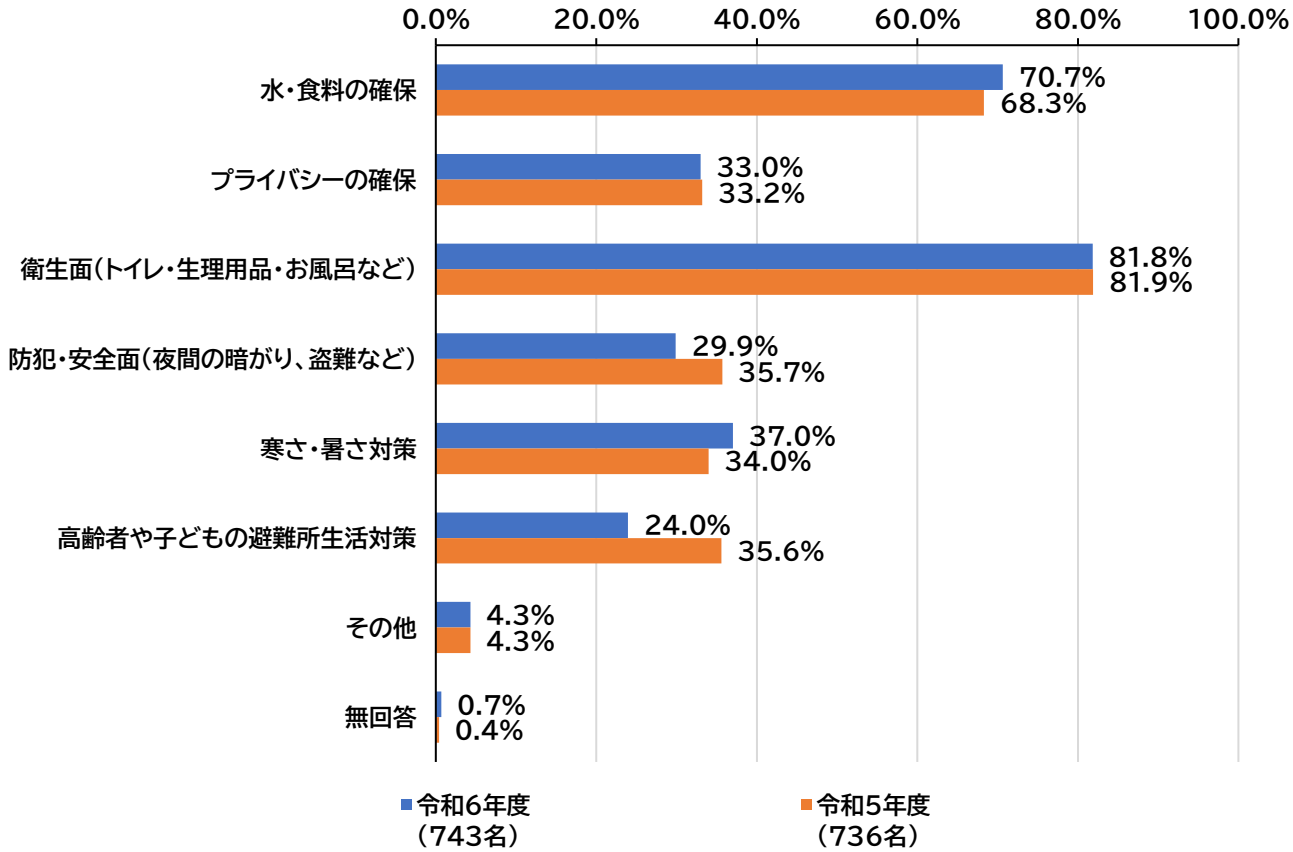
年齢別で最も多い回答を比較すると、18～34 歳では「SNS を魅力的にする」であり、35～64 歳及び 65 歳以上では「広報紙を見やすくする」となっています。

4. 地域の防災力向上

阿倍野区では、「災害対策基本法」、「大阪市地域防災計画」及び「阿倍野区地域防災計画」に基づき、防災関係機関及び区民との協働による地域防災力の向上を図っています。

【問8】災害時の避難所生活において、不安に思うことを上位3つまで選択してください。

		回答者数	水・食料の確保	プライバシーの確保	衛生面	防犯・安全面	寒さ・暑さ対策	高齢者や子どもの避難所生活対策	その他	無回答
全体		743	70.7%	33.0%	81.8%	29.9%	37.0%	24.0%	4.3%	0.7%
年齢別	18～34 歳	105	69.5%	39.0%	80.0%	31.4%	39.0%	13.3%	3.8%	1.0%
	35～64 歳	376	69.1%	33.5%	84.3%	34.0%	40.7%	15.2%	5.1%	0.0%
	65 歳～	262	73.3%	29.8%	79.0%	23.3%	30.9%	40.8%	3.4%	1.5%



■　全体

「衛生面（トイレ・生理用品・お風呂など）」が 81.8%と最も多く、次いで「水・食料の確保」が 70.7%、「寒さ・暑さ対策」が 37.0%、「プライバシーの確保」が 33.0%、「防犯・安全面（夜間の暗がり、盗難など）」が 29.9%、「高齢者や子どもの避難所生活対策」が 24.0%の順となっています。

「その他」の回答では、「ペットに関する懸念」が 43.7%と最も多く、次いで「避難所や避難生活に関する懸念」が 18.7%となっています。

■　経年変化

最も回答率が高かった「衛生面（トイレ・生理用品・お風呂など）」で経年変化を見ると、令和 5 年度が 81.9%に対し、令和 6 年度は 81.8%とほぼ同率となっています。次いで回答率の高かった「水・食料の確保」は、令和5年度が 68.3%に対し、令和6年度は 70.7%と 2.4 ポイント増加しています。「寒さ・暑さ対策」は、令和5年度が 34.0%に対し、令和6年度は 37.0%と、3 ポイント増加しています。

■　年齢別

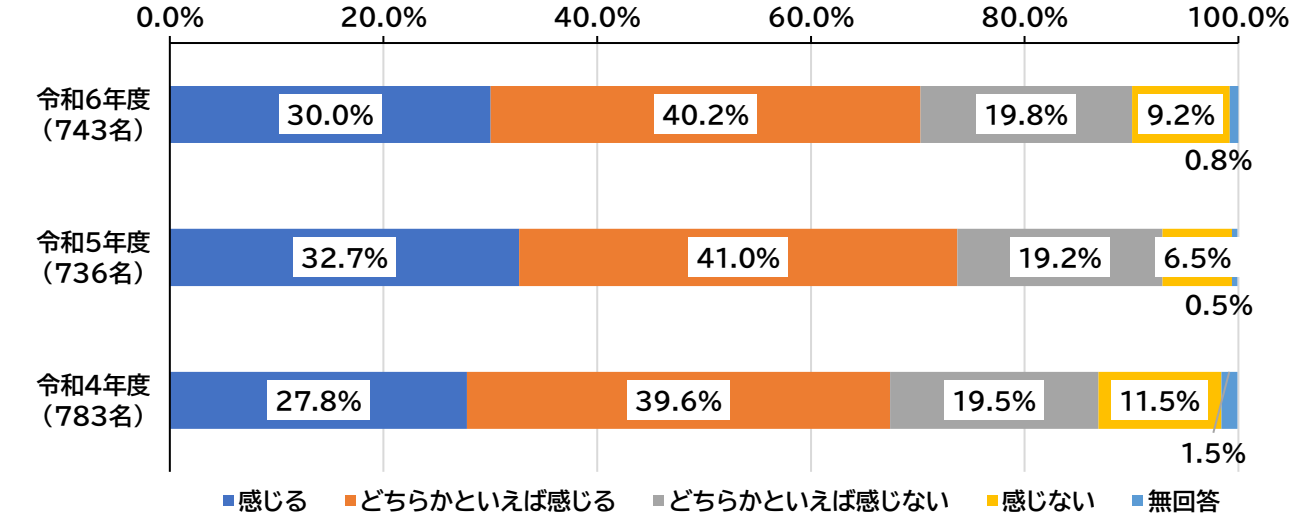
全ての年齢において最も多い回答が「衛生面（トイレ・生理用品・お風呂など）」で、次いで「水・食料の確保」が多くなっています。

5. 活力ある地域コミュニティづくりの推進

阿倍野区内には、自治会・町内会や老人会、子ども会、PTAなど、地域にお住まいの方々で構成された地域団体があり、防災訓練、防犯活動、お祭り、清掃活動、登下校の見守り活動等、様々な活動をしています。

【問9】あなたは、このような身近な地域でのつながりが役立っていると感じますか。

		回答者数	感じる（a）	どちらかといえば感じる（b）	どちらかといえば感じない（c）	感じない（d）	無回答	計	感じる計（a+b）	感じない計（c+d）
全体		743	30.0%	40.2%	19.8%	9.2%	0.8%	100.0%	70.2%	29.0%
年齢別	18～34 歳	105	25.7%	44.8%	17.1%	11.4%	1.0%	100.0%	70.5%	28.5%
	35～64 歳	376	29.3%	40.7%	21.3%	8.8%	0.0%	100.0%	70.0%	30.1%
	65 歳～	262	32.8%	37.8%	18.7%	8.8%	1.9%	100.0%	70.6%	27.5%



■　全体

「感じる」30.0%、「どちらかといえば感じる」40.2%を合わせた「感じる計」は 70.2%となり、「どちらかといえば感じない」19.8%、「感じない」9.2%を合わせた「感じない計」の 29.0%に対し、「感じる計」が 41.2 ポイントと上回っています。

■　経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 5 年度が 73.7%に対し、令和 6 年度は 70.2%と、3.5 ポイント減少しています。

■　年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、65 歳以上が 70.6%と最も多く、次いで 18～34 歳が 70.5%、35～64 歳が 70.0%となっており、大きな違いは見られません。

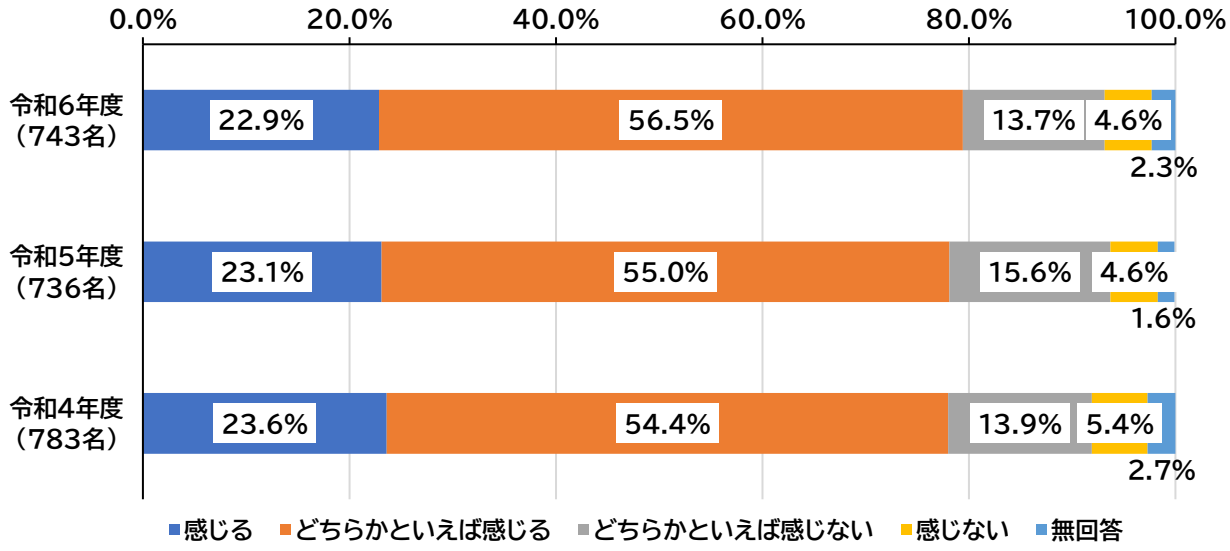
6. 子育てしやすく、すべての子ども・青少年が健やかに育つ環境づくり

阿倍野区では、子育て支援施設とのネットワーク作りや、「あべの子育て MAP」「子育てミニニュース」による区民への情報提供、各年齢に応じた相談業務・講座などを行っています。

子育て世代が安心して子育てできるよう様々なニーズに対応したきめ細やかな取組を行い、子ども・青少年の健やかな成長を支える環境づくりを進めています。

【問10】あなたは、阿倍野区では安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境にあると感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらかといえば感じる (b)	どちらかといえば感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる計 (a+b)	感じない計 (c+d)
全体		743	22.9%	56.5%	13.7%	4.6%	2.3%	100.0%	79.4%	18.3%
年齢別	18～34 歳	105	28.6%	53.3%	10.5%	6.7%	1.0%	100.0%	81.9%	17.2%
	35～64 歳	376	22.9%	58.5%	14.4%	4.3%	0.0%	100.0%	81.4%	18.7%
	65 歳～	262	20.6%	55.0%	14.1%	4.2%	6.1%	100.0%	75.6%	18.3%



■ 全体

「感じる」22.9%、「どちらかといえば感じる」56.5%を合わせた「感じる計」は 79.4%に対し、「どちらかといえば感じない」13.7%、「感じない」4.6%を合わせた「感じない計」は 18.3%と、「感じる計」が 61.1 ポイント上回っています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 4 年度が 78.0%、令和5年度が 78.1%に対し、令和 6 年度は 79.4%と、微増傾向にあります。

■　年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 81.9%と最も多く、次いで 35～64 歳が 81.4%、65 歳以上が 75.6%となっており、年齢が低いほど、安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境にあると感じている傾向がうかがえます。

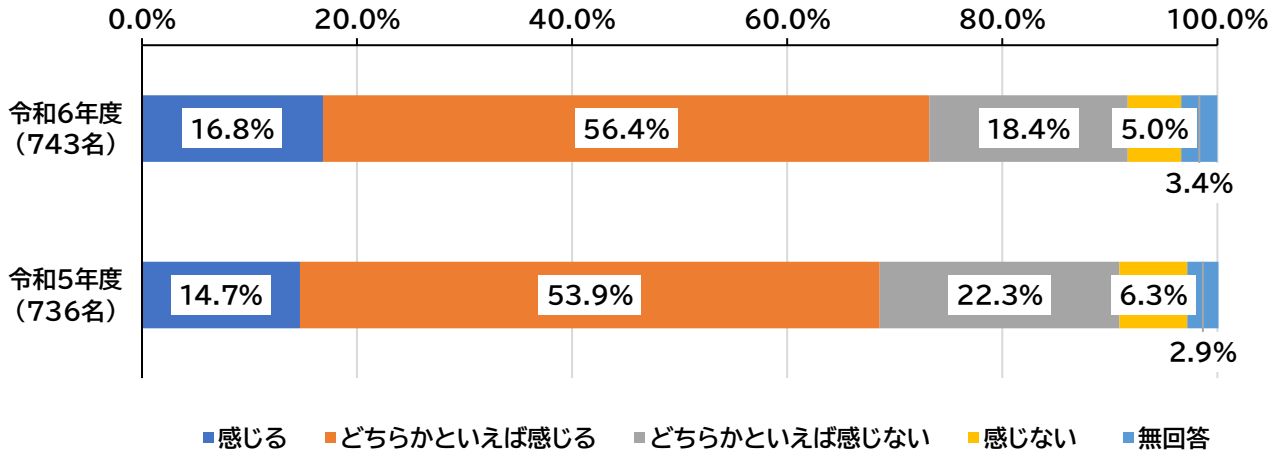
7. 子ども・青少年が安心して教育を受け、成長できるまち

阿倍野区では、 子どもが安心して成長できる教育環境整備のため、学力・体力向上を目的とした取組による学校教育のサポートをはじめ、保護者・地域・学校園が連携し、子ども・青少年を健やかに育む取組を支援しています。教育環境の推進・整備のための具体的な取組は以下のとおりです。

●教育関係者との連携・意見交換
・教育会議
・教育行政連絡会
●子どもの学力向上・体力向上
・英語教育
・体力向上
・音楽体感
●学校園への支援
・教員サポート講習会
・学校園等支援ボランティア人材募集
●共に生きるまちをめざして
・人権啓発・共生社会推進
・青少年健全育成
●不登校児などの相談支援事業
・相談窓口
・居場所の提供
●生涯学習の推進
・生涯学習推進
・生涯学習ルーム

【問11】阿倍野区では、教育環境の推進・整備のため、上記の事業をはじめとした様々な取組を実施しています。これらの取組が、子どもが安心して成長できる教育環境の推進・整備に役立っていると感じますか。

		回答者数	感じる（a）	どちらかといえば感じる（b）	どちらかといえば感じない（c）	感じない（d）	無回答	計	感じる計（a+b）	感じない計（c+d）
全体		743	16.8%	56.4%	18.4%	5.0%	3.4%	100.0%	73.2%	23.4%
年齢別	18～34 歳	105	21.9%	56.2%	18.1%	2.9%	1.0%	100.0%	78.1%	21.0%
	35～64 歳	376	14.4%	59.6%	20.7%	5.1%	0.3%	100.0%	73.9%	25.8%
	65 歳～	262	18.3%	51.9%	15.3%	5.7%	8.8%	100.0%	70.2%	21.0%



■　全体

「感じる」16.8%、「どちらかといえば感じる」56.4%を合わせた「感じる計」は 73.2%に対し、「どちらかといえば感じない」18.4%、「感じない」5.0%を合わせた「感じない計」は 23.4%と、「感じる計」が 49.8 ポイント上回っています。

■　経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和5年度が 68.6%に対し、令和6年度は 73.2%と 4.6 ポイント増加しています。

■　年齢別

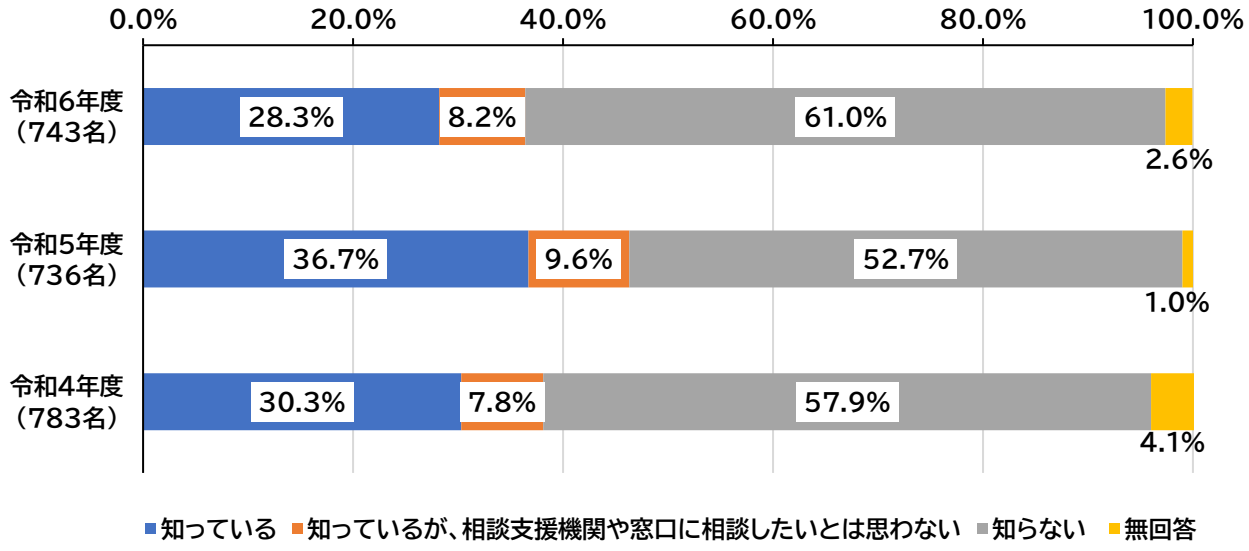
「感じる」、「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 78.1%と最も多く、次いで 35～64 歳は 73.9%、65 歳以上は 70.2%となっており、年齢が低いほど、区の取組が、子どもが安心して成長できる教育環境の推進・整備に役立っていると感じている傾向がうかがえます。

8. みんなで支え合う地域づくりと支援体制の充実

阿倍野区には区役所をはじめ、高齢者・障がい者・生活困窮にかかわる様々な相談支援機関があります。（例 高齢者：地域包括支援センター、障がい者：障がい者基幹相談支援センター、生活困窮者：「仕事・生活・自立相談あべの」など）

【問12】あなたは、ご自身や家族のことで、生活や住まい、仕事などのお困りごとが生じたとき、どの相談支援機関や窓口に相談すればよいかご存じですか。

		回答者数	知っている	知っているが、相談支援機関や窓口に相談したいとは思わない	知らない	無回答	計
全体		743	28.3%	8.2%	61.0%	2.6%	100.0%
年齢別	18～34 歳	105	9.5%	3.8%	86.7%	0.0%	100.0%
	35～64 歳	376	31.9%	7.7%	59.6%	0.8%	100.0%
	65 歳～	262	30.5%	10.7%	52.7%	6.1%	100.0%



■ 全体

「知っている」が 28.3%、「知っているが、相談支援機関や窓口に相談したいとは思わない」が 8.2%、「知らない」が 61.0%となっており、「知らない」と回答した割合が過半数を占めています。

■ 経年変化

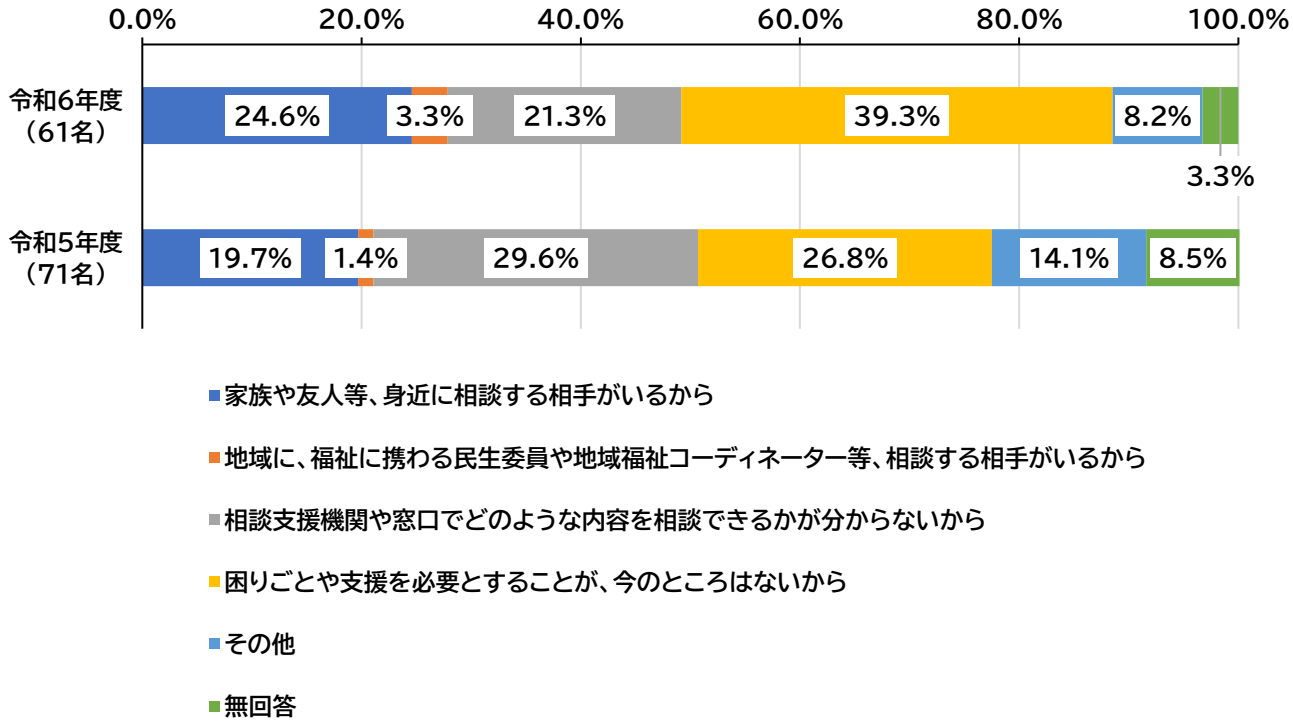
「知らない」が令和 5 年度は 52.7%に対し、令和 6 年度は 61.0%と 8.3 ポイント増加し、「知っている」が令和 5 年度は 36.7%に対し、令和 6 年度は 28.3%と 8.4 ポイント減少しています。「知っているが、相談支援機関や窓口に相談したいとは思わない」が令和 5 年度は 9.6%に対し、令和 6 年度は 8.2%と 1.4 ポイント減少しています。

■　年齢別

「知っている」は 35～64 歳が 31.9%と最も多く、次いで 65 歳以上が 30.5%、18～34 歳が 9.5%となっています。「知っているが、相談支援機関や窓口に相談したいとは思わない」は 65 歳以上が 10.7%と最も多く、次いで 35～64 歳が 7.7%、18～34 歳は 3.8%となっています。「知らない」は 18～34 歳が 86.7%と最も多く、次いで 35～64 歳が 59.6%、65 歳以上が 52.7%となっています。

【問13】　問 12 で「2 知っているが、相談支援機関や窓口に相談したいとは思わない」と答えた方におうかがいします。そう思われるのはなぜですか。

		回答者数	家族や友人等、身近に相談する相手がいるから	地域に、福祉に携わる民生委員や地域福祉コーディネーター等、相談する相手がいるから	相談支援機関や窓口でどのような内容を相談できるかが分からないから	困りごとや支援を必要とすることが、今のところはないから	その他	無回答	計
全体		61	24.6%	3.3%	21.3%	39.3%	8.2%	3.3%	100.0%
年齢別	18～34 歳	4	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	35～64 歳	29	20.7%	3.4%	34.5%	37.9%	3.4%	0.0%	100.0%
	65 歳～	28	28.6%	3.6%	7.1%	39.3%	14.3%	7.1%	100.0%



■　全体

「困りごとや支援を必要とすることが、今のところはないから」が 39.3%と最も多く、次いで「家族や友人等、身近に相談する相手がいるから」が 24.6%、「相談支援機関や窓口でどのような内容を相談できるかが分からないから」が 21.3%、「地域に、福祉に携わる民生委員や地域福祉コーディネーター等、相談する相手がいるから」が 3.3%となっています。

「その他」の回答では、「行政サービスへの期待の欠如」が 60%と最も多く、次いで「地域との関係の希薄さ」が 20%となっています。

■　経年変化

「困りごとや支援を必要とすることが、今のところはないから」は令和 5 年度が 26.8%に対し、令和 6 年度が 39.3%と 12.5 ポイント増加し、「家族や友人等、身近に相談する相手がいるから」は令和 5 年度が 19.7%に対し、令和 6 年度が 24.6%と 4.9.ポイント増加し、「地域に、福祉に携わる民生委員や地域福祉コーディネーター等、相談する相手がいるから」は令和 5 年度が 1.4%に対し、令和 6 年度が 3.3%と 1.9 ポイント増加しています。一方で、「相談支援機関や窓口でどのような内容を相談できるかが分からないから」が令和 5 年度が 29.6%に対し、令和 6 年度が 21.3%と 8.3 ポイント減少しています。

■　年齢別

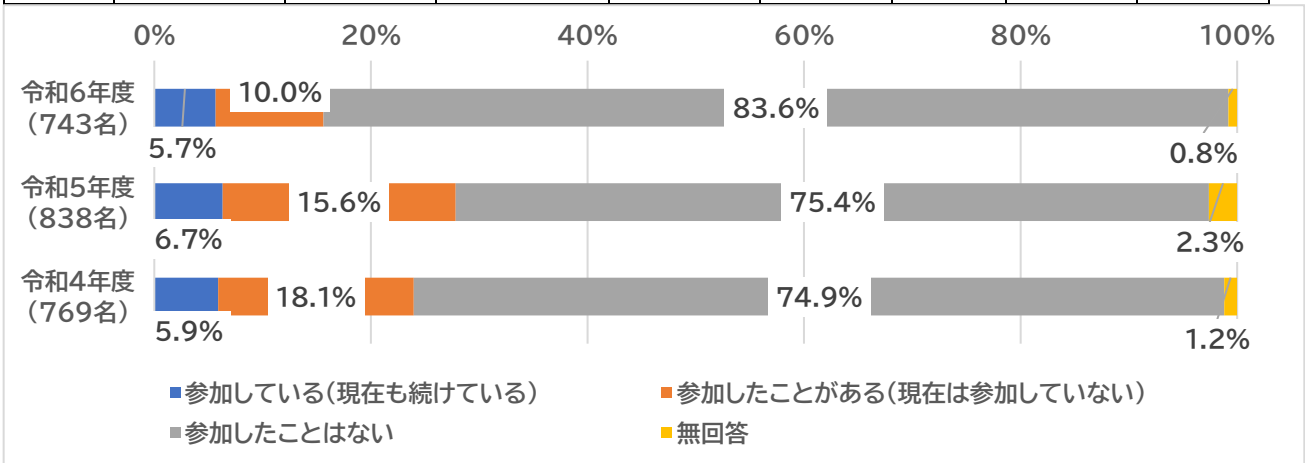
18～34 歳では「困りごとや支援を必要とすることが、今のところないから」が 50%と最も多く、次いで「相談支援機関や窓口でどのような内容を相談できるか分からないから」と「家族や友人等、相談する相手がいるから」が 25%と同率になっています。35～64 歳では「困りごとや支援を必要とすることが、今のところないから」が 37.9%と最も多く、次いで「相談支援機関や窓口でどのような内容を相談できるかが分からないから」が 34.5%、「家族や友人等、身近に相談する相手がいるから」が 20.7%、「地域に、福祉に携わる民生委員や地域福祉コーディネーター等、相談する相手がいるから」が 3.4%となっています。65 歳以上では「困りごとや支援を必要とすることが、今のところはないから」が 39.3%と最も多く、次いで「家族や友人等、身近に相談する相手がいるから」が 28.6%、「相談支援機関や窓口でどのような内容を相談できるかが分からないから」が 7.1%、「地域に、福祉に携わる民生委員や地域福祉コーディネーター等、相談する相手がいるから」が 3.6%となっています。

9. 地域福祉計画の推進

阿倍野区では、お住まいの地域において、さまざまな地域福祉活動が展開されています。
（児童の登下校時の見守り活動・ふれあい喫茶・ 地域防災に関する活動・高齢者食事サービスなど）

【問14】 これまで地域福祉活動に参加したことはありますか。

		回答者数	参加している（現在も続けている）（a）	参加したことがある（現在は参加していない）（b）	参加したことはない	無回答	計	参加経験がある計（a+b）
全体		743	5.7%	10.0%	83.6%	0.8%	100.0%	15.7%
年齢別	18～34 歳	105	0.0%	2.9%	97.1%	0.0%	100.0%	2.9%
	35～64 歳	376	5.6%	8.2%	85.9%	0.3%	100.0%	13.8%
	65 歳～	262	8.0%	15.3%	74.8%	1.9%	100.0%	23.3%



■ 全体

「参加したことはない」が 83.6%と最も多く、次いで「参加したことがある（現在は参加していない）」が 10.0%、「参加している（現在も続けている）」が 5.7%となっています。「参加している（現在も続けている）」5.7%と「参加したことがある（現在は参加していない）」10.0%を合わせた「参加経験がある計」は 15.7%で、「参加したことはない」83.6%に比べて 67.9%下回っています。

■ 経年変化

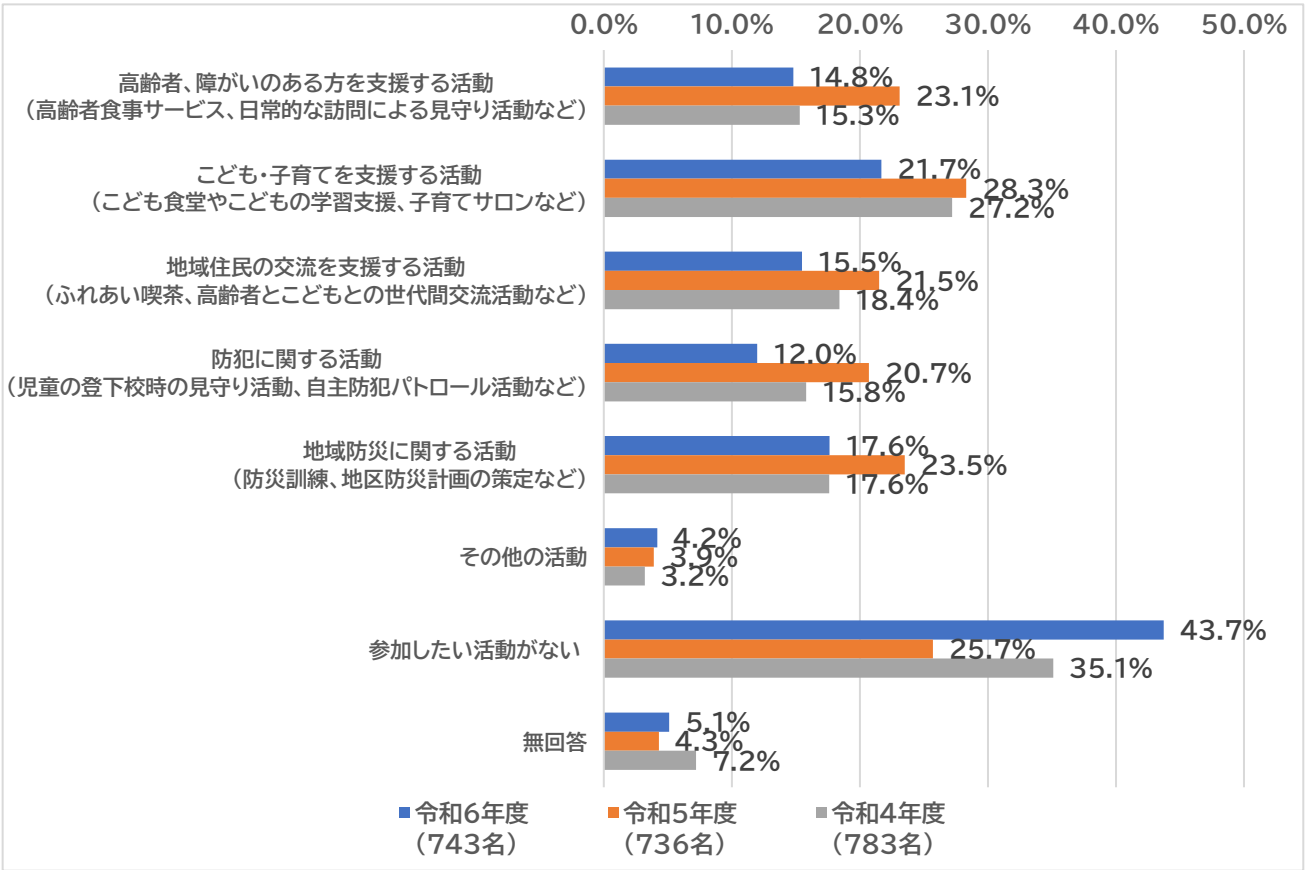
「参加経験がある計」で経年変化を見ると、令和 4 年度が 24.0%と最も多く、次いで令和5年度が 22.3%、令和6年度が 15.7%の順になっています。

■ 年齢別

「参加している（現在も続けている）」と「参加したことがある（現在は参加していない）」を合わせた「参加経験がある計」を年齢別で比較すると、65 歳以上は 23.3%と最も多く、次いで 35～64 歳が 13.8%、18～34 歳が 2.9%となっており、年齢が高いほど、地域福祉活動の参加経験がある方の割合が高くなっています。

【問15】どのような地域福祉活動がお住まいの地域で実施されていれば、参加したいと思いますか（複数回答可）。

		回答者数	高齢者、障がいのある方を支援する活動	こども・子育てを支援する活動	地域住民の交流を支援する活動	防犯に関する活動	地域防災に関する活動	その他の活動	参加したい活動がない	無回答
全体		743	14.8%	21.7%	15.5%	12.0%	17.6%	4.2%	43.7%	5.1%
年齢別	18～34 歳	105	3.8%	30.5%	13.3%	11.4%	14.3%	1.9%	47.6%	1.9%
	35～64 歳	376	13.6%	25.5%	11.4%	13.0%	21.3%	3.5%	47.3%	2.1%
	65 歳～	262	21.0%	12.6%	22.1%	10.7%	13.7%	6.1%	37.0%	10.7%



■　全体

「参加したい活動がない」が 43.7%と最も多く、次いで「こども・子育てを支援する活動」が 21.7%、「地域防災に関する活動」が 17.6%、「地域住民の交流を支援する活動」が 15.5%、「高齢者、障がいのある方を支援する活動」が 14.8%、「防犯に関する活動」が 12.0%、「その他の活動」が 4.2%となっています。

「その他の活動」で最も多い回答が「高齢者や体力に配慮した活動」と「活動へ参加する意欲または余裕がない」で 25.8%、次いで「地域コミュニティの支援活動」が 22.5%となっています。

■　経年変化

「こども・子育てを支援する活動」は令和 5 年度が 28.3%に対し、令和 6 年度は 21.7%と 6.6 ポイント減少しています。

令和 5 年度と比べて令和 6 年度の回答は全体的に減少傾向が見られます。令和 5 年度と比べた令和6年度の減少率については、「防犯に関する活動」が 8.7 ポイントと最も大きく、次いで「高齢者、障がいのある方を支援する活動」が 8.3 ポイント、「こども・子育てを支援する活動」が 6.6 ポイントの順になっています。

一方、「参加したい活動がない」は、令和5年度の 25.7%に対し、令和 6 年度は 43.7%と、18 ポイント増加しています。

■　年齢別

参加したい活動で最も多いものは、18～34 歳は「こども・子育てを支援する活動」30.5%、35～64 歳は同じく「こども・子育てを支援する活動」25.5%、65 歳以上では「地域住民の交流を支援する活動」22.1%となっています。

以上、みなさまからいただいたご意見をふまえ、さらなる改善に向けて今後の区政に活かしてまいります。